

## 2023 年度事業計画について

2022 年度は、「絆の会 5 か年中期事業計画」が 2 年目となった。就労系事業所では新たな事業形態や事業内容について引き続き検討している。特に悠友ハウスは、利用人数は増加しているが障害種別や就労だけでなく居場所としての利用など、利用目的の多様化で事業形態の見直しに迫られている。グループホームは老朽化した「リアン若里」の松岡地区への移転を決定し、3 月には改修工事を終え、4 月 1 日の開設に向けて「リアン松岡」と名称変更し準備をしている。地域活動支援センター皆神ハウスでは利便性の課題から、「リアン若里」への後利用を決めた。委託の長野市障害者相談支援事業は専門性の高い職員の確保が困難となったため、今年度末で委託の契約を終了する。また、ここ数年離職する職員が多く、職場定着に向けた人材育成、働きやすさ、働きがい、職場のチーム形成などに課題が残った。一方、コロナ禍が続く中、感染に注意しながらも、行事、研修、イベント等を開催することができた。特に研修については、陸前高田市等県外にも利用者、家族、職員で参加するなど、以前の状況が戻りつつある。

2023 年度は、居場所等利用目的が多様化している悠友ハウスの課題解決に向けて若里地域に移転することとなった地域活動支援センターとともに新たな事業形態について検討していく。グループホームでは利用者の高齢化や多様なニーズに対応するため、職員体制の見直しを行い、関わる職員が情報を共有し同じ方向性で支援をしていく。移転した「リアン松岡」は地域に定着できるよう周囲との良好な関係づくりを心がけていく。

研修については、職層及び全職員を対象とした研修を継続するとともに職員一人一人に対する OJT を活用した継続的なアプローチを行い、コミュニケーションを重視した働きがいのある職場づくりを目指していく。昨年度新たに始めた中堅職員研修や支援の基礎となる「面接技術の研修」を継続して行うとともに、新たに短時間職員を対象とした参加しやすい時間帯など工夫した研修を企画していく。

行事としては「語り合い、学びあい、未来へ伝えよう」をテーマに、きょうされん専務理事の藤井克徳氏をお招きし、10 月 7 日（土）法人化 20 周年記念事業の開催を企画している。利用者、家族、ボランティア、職員の 4 本柱が語り合い、学び合いながら 10 月 7 日を迎え、さらにそこから見えてきた課題に取り組んでいく一年としたい。

昨年 9 月、障害者の権利条約の締結国として日本が提出したレポートへの国連権利委員会の「総括所見」では日本の無期限の入院等、権利侵害に当たる実態に対して厳しい勧告がなされた。さらに総括所見について学び、改善へ向けての働きかけを全国の仲間と連携し、力を合わせて行っていく。

# I 2023年度 法人本部事業計画

## 1 会議の開催等

### (1) 理事会の開催

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ① 2023年度第1回理事会 | 2023年6月8日(木)   |
| ② 2023年度第2回理事会 | 2023年6月23日(金)  |
| ③ 2023年度第3回理事会 | 2023年11月16日(木) |
| ④ 2023年度第4回理事会 | 2024年3月21日(木)  |

適時理事会開催

### (2) 評議員会の開催

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 2023年度定時評議員会 | 2023年6月23日(金) |
|--------------|---------------|

### (3) 監事による内部監査

	2023年5月27日(土)
--	---------------

### (4) 評議員選任・解任委員会

### (5) 事業運営のための諸会議

- |                    |      |
|--------------------|------|
| ① 運営会議             | 年3回  |
| ② 責任者会             | 適宜   |
| ③ 経営会議             | 年2回  |
| ④ 所長会              | 年10回 |
| ⑤ 所長・主任会           | 年2回  |
| ⑥ 主任会              | 年数回  |
| ⑦ 全体会              | 年4回  |
| ⑧ 就労B型・就労移行会議      | 年12回 |
| ⑨ グループホーム会(世話人連絡会) | 年12回 |
| ⑩ 地域活動支援センタースタッフ会  | 年12回 |
| ⑪ 相談室スタッフ会         | 年12回 |

### (6) 苦情解決担当者・第三者委員等会議

	2023年7月14日(金)
--	---------------

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 苦情解決担当者・第三者委員事業所見学交流会 | 2023年11月17日(金) |
|-----------------------|----------------|

### (7) 虐待防止委員会

	2023年7月14日(金)
--	---------------

### (8) サポーター・家族会合同事業所見学会

	2023年10月17日(火)
--	----------------

## 2 各種委員会・検討会等

### (1) 絆の会サポート委員会

### (2) 職員処遇改善検討会

### (3) ボランティア委員会

### (4) 災害・感染症等対策委員会

### (5) 法人化20周年実行委員会

### (6) 絆の会ホームページ管理運営委員会

### (7) ハートレター絆編集委員会

### 3 事業一覧

#### (1) 社会福祉事業

##### ① 多機能型事業

就労移行支援事業	悠友ハウス就労支援センター	定員 6 名
就労定着支援事業	悠友ハウス就労支援センター	
就労継続支援B型事業	悠友ハウス	定員 25 名

##### ② 就労継続支援B型事業

信州そば工房きずな	定員 20 名
びーんず（従：あんだんて）	定員 20 名（主・従：10 名ずつ）

##### ③ 共同生活援助事業（グループホーム）

絆の会地域生活センター（4 か所）	定員 22 名
-------------------	---------

##### ④ 短期入所事業

みらいコーポ稲葉	1 床
----------	-----

##### ⑤ 地域活動支援センター

皆神ハウス（Ⅲ型Sタイプ）	定員 20 名
---------------	---------

##### ⑥ 長野市障害者地域移行支援事業（長野市受託事業）

指定特定相談支援事業（計画相談支援）	絆の会相談室
指定一般相談支援事業（地域相談支援）	
自立生活援助事業	

#### (2) 収益事業

絆の会松代温泉駐車場事業	長野市松代温泉 78
--------------	------------

- ① 新たな借主を探していく。
- ② 今後の方向性について検討していく。

### 4 職員体制

職員 61 名（正規（一般職員）19 名、嘱託等 42 名）

うち、統括施設長	1 名
統括管理者	3 名
所長・事務長	6 名
主任	5 名

### 5 職員研修計画

#### (1) 内部研修会

新任職員研修（3 年未満職員対象）	4 回
職員スキルアップ研修（面接技法）	
中堅職員研修	
パワーハラスメント、メンタルヘルス研修	1 回
各種研修報告	適宜

#### (2) 事例検討会

就労部門と地域・生活部門の 2 グループに分け各 4 回実施  
外部参加者：精神科医師、精神科ソーシャルワーカー、ケース関係者等

(3) 外部研修（県内外各種研修会）への参加

相談支援従事者研修、サービス管理責任者研修、ジョブコーチ研修、管理者研修  
OJT リーダー研修、中堅職員研修、新任職員研修、きょうされん関係研修  
障害者虐待防止研修、他

(4) 当法人主催の研修会

長野市地域移行支援関係者研修会

6 当事者・家族・ボランティア活動への支援

(1) 当事者活動への支援

ひまわりの会への支援

絆の会各事業所のメンバー会及び自主活動（スポーツ・合唱等）

障害者スポーツ大会（地区予選）への参加及び練習（毎週水曜日）

第23回全国障害者スポーツ大会北信越・東海ブロック予選会バレーボール競技（精神障害者の部）

(2) 家族会活動への支援

絆の会家族会総会・研修会・家族交流会の開催への支援

各事業所の家族会定例会の開催

(3) ボランティア体制の充実と活性化への支援

絆の会ボランティア委員会による自主的活動（交流会・研修会）支援

精神保健福祉ボランティア養成講座の開催

「絆カフェ」支援

7 広報・普及活動等

法人化20周年記念事業の開催                      2023年10月7日（土）      長野市若里市民文化ホール

パンフレットの充実

ホームページによる発信

会報「ハートレター絆」の発行                      年5回

8 障害者の地域生活向上に向けた取組

他団体や関係機関等との連携及び協同

長野市障害ふくしネット（長野市自立支援協議会）への参加

ポプラの会との協同

障害者福祉推進のための諸活動への参加

## II-1 2023年度 多機能型事業所（就労移行支援・就労定着支援・就労継続支援B型）事業計画

### (1) 悠友ハウス就労支援センター（就労移行支援）

所在地	長野市若里三丁目 14-23	TEL/FAX	026-219-5131/026-219-4701
定員	6名	開設時間	月～金（9:00～17:00）

#### 1 2023年度に向けて

2022年度は、利用者の課題把握や気づきを促す場として新たにワークサンプルを取り入れた。公開講座は外部講師による4回シリーズで実施、ボランティアとの活動では若里公園でレクリエーションを行い、利用者、ボランティア双方から好評だった。5名が就職（新規利用者2名）した一方で、新規利用者が少なく、受け入れの継続が課題。

2023年度は、ワークサンプルでは客観的な評価を行い、その結果を利用者と共有する他、一人ひとりの課題に沿って行えるよう工夫していく。公開講座は参加者が就職をイメージできる内容を検討していく。また一人ひとりの特性、希望に合わせた企業実習・見学先を開拓し、就職につなげていく。その他、職員と日々の困りごとについて相談する時間を確保し、支援力の向上を目指す。

#### 2 事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各種プログラム内容の整理</li> <li>② 個別支援の充実</li> <li>③ 利用者増に向けた取り組み</li> <li>④ 職員の資質の向上</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 就労プログラムとしてワークサンプルでは作業指示書や記録用紙を作成し、客観的な評価を行い、その結果を利用者と共有できるようにしていく。また計画書を作成し、一人ひとりの課題に沿って行っていく。生産活動では引き続き取引先2社に出向いて作業を行い、自身の職業適性を知る場、訓練の場としていく。またPCを使用して自習学習できる環境を作り、学べる時間を作る。余暇ではボランティアとの活動をボランティアと相談しながらレクリエーションなど楽しい企画を考え、実施していく。その他ワゴンカフェは、悠友ハウスの就労移行を目指す利用者の作業としても実施していく。</li> <li>② 個別支援計画に沿って、一人ひとりの特性、希望に合った企業見学・実習先を開拓していく。また定期面談を通してその都度目標とそれに対する課題を利用者と確認しながら取り組んでいく。</li> <li>③ 地域の就職希望者等を対象とした公開講座では就職をイメージできるような内容（就職者の体験発表や企業担当者のお話など）を検討し、実施していく。</li> <li>④ 積極的に研修への参加を促し、支援力の向上を目指す。またスタッフ会に加え、朝のミーティング時間を延長する日を設け、日々の困りごとについて相談する時間を確保する。</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生産活動 ・封緘作業 ・菓子袋詰め</li> <li>■ プログラム ・座学 ・SST ・自習学習（PC活用） ・ワークサンプル ・公開講座 ・企業見学・実習</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 余暇 ・ ボランティアとの活動（太極拳等） ・ OB/OG会</li> <li>■ その他 ①メンバー会（月1回） ②当事者会（ひまわりの会）</li> <li>③合唱（月2回） ④スポーツ（ソフトバレー）</li> <li>⑤避難・防災訓練（年2回） ⑥研修会等参加（随時）</li> </ul>
--

## （2）悠友ハウス就労支援センター（就労定着支援）

所在地	長野市若里三丁目 14-23	TEL/FAX	026-219-5131/026-219-4701
定員	20名	開設時間	月～金（9:00～17:00）

### 1 2023年度に向けて

2022年度は17名が利用（内6名がサービス終了）した。体調が安定しない利用者には職場訪問、勤務調整など迅速に対応した。サービス終了後も関係機関と情報共有するなど必要な支援を行った。その他、就職者同士の交流の場を3回開催、今後も継続していく。

2023年度は、サービス開始時からサービス終了を見据えて利用者、企業、関係機関と相談しながら計画的に支援していく。長期欠勤している利用者には職場復帰ができるよう企業とも相談しながら必要な支援を検討・実施していく。また就職者同士の交流の場は、利用者とも相談しながら継続していく。

### 2 事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① サービス終了後を見据えた支援の実施</li> <li>② 個別支援の充実</li> <li>③ 企業への誠実な対応</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① サービス開始時から利用者とサービス終了後について、どんな支援機関が支援するのか話題にし、企業や関係機関と情報共有するなど、計画的に支援していく。</li> <li>② 長期欠勤者に対して、スムーズに復職できるよう企業とも相談しながら所内で職場を模した作業の提供など、必要な支援を検討・実施していく。利用者同士の交流の場について、利用者とは相談しながら自主的に取り組んで行けるように支援し、継続していく。</li> <li>③ 企業からの相談には誠実に対応し、利用者と企業が良好な関係を維持できるように取り組む。</li> </ul>

## （3）悠友ハウス（就労継続支援B型）

所在地	長野市若里三丁目 14-23	TEL/FAX	026-219-5131/026-219-4701
定員	25名	開設時間	月～金（9:00～17:00）

### 1 2023年度に向けて

2022年度は、軽作業では作業室のレイアウト変更など一人ひとりが落ち着いて作業できるようにした。アウトワークでは悠友ハウス近隣から新規の仕事を受注。今後も地域に根差した事業を目指していく。その他、利用者の障害種別、高齢化に伴い、他法人事業所を見学するなど、今後の事業展開について検討した。一方、コロナ禍で職員の欠勤により、作業を縮小・中止せざるを得ない場面があ

り、課題を残した。

2023年度は、各事業で特定の職員に依存しない体制を作り、複数職員が携われるようにしていく。また利用者の希望に応じた作業が提供できるよう作業量を確保していく。メンバー会やイベントへの参加を通して、利用者が役割を担い、自ら取り組める場面を提供していく。その他、利用者の障害種別の多様化、高齢化に対応するための事業展開を引き続き検討していく。

## 2 事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者の特性に合わせた環境整備と作業量の確保</li> <li>② 利用者の主体性を大切にしたり取り組み</li> <li>③ 就労移行との連携</li> <li>④ 個別支援計画に基づいた支援と職員の質の向上</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 軽作業では資材の定位置、見える化、作業スペースの確保等、落ち着いて作業ができる環境を引き続き作る。印刷では作業マニュアルを作り、それに沿って作業が出来るように工夫し、従業者を育成する。アウトワークでは悠友ハウス近隣にポスティングする等し、地域からの仕事を増やし、工賃アップを目指していく。販売ではKizuna Shopの店番、店頭販売、その他販路を拡大し、作業量を確保すると共に当法人B型事業所全体の売上増を目指す。その他、利用者の障害種別の多様化、高齢化に対応するための事業展開を引き続き検討していく。</li> <li>② メンバー会やイベント準備、参加を通して、利用者が役割を担い、自ら取り組み、自分の意見を発言できる場を提供する</li> <li>③ ワゴンカフェ、印刷を一般就労希望者のプログラムとして実施。計画的に就労移行へ移行できるようにする。</li> <li>④ 日々の利用者対応について一人ひとりの希望や目標、課題も踏まえて対応できるように、面談や支援会議への同席、職員間で個別支援計画を共有する。また各事業で複数職員が携われるよう引継ぎを行い、特定の職員に依存しない体制にする。その他、1人ひとりの職員と相談しながら目標と課題を設け、職員がやりがいを持って働き続けられるよう取り組む。</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 作業 ・軽作業（箱折り・発送・ゼリー詰め） ・清掃 ・ポスティング ・印刷事業 ・販売（出張販売・Kizuna Shop） ・ワゴンカフェ ・アウトワーク（草取り、公園の手入）</li> <li>■ その他 ①メンバー会（月1回） ②合唱（月2回） ③スポーツ（ソフトバレー）④避難・防災訓練（年2回） ⑤研修会等参加（随時）</li> </ul>
作業種別 目標工賃	<p>時給 軽作業 110円、アウトワーク 550円、清掃 650円、販売 200円、印刷 150円</p> <p>平均月額 8,000円、最高月額 50,000円</p>

## II-2 2023年度 就労継続支援B型事業計画

### (1) 信州そば工房きずな

所在地	長野市柳原 659-1	TEL/FAX	026-263-9788/026-217-5220
定員	20名	開設時間	月～金（8：45～16：30）

#### 1 2023年度に向けて

2022年度は、季節のギフトや年越しそばなどにより麺の売上確保に努め、軽作業では新規取引先の仕事を始めた。一方、年間を通じた製造量に波があり、安定した製造量の確保が課題である。また、希望のある利用者には、送迎サービスを行い通所の定着を図ることができた。事業所の在り方については、次年度も引き続いて検討を行っていく。

2023年度は、麺の製造と販売を様々な方法で生産活動を充実させていく一方で、施設外で行う援農作業を見直し縮小していく。また、送迎サービスの拡充など利用者のニーズに応え、利用者増と定着を図っていく。支援においては、課題を検討して情報を共有し、職員が連携して利用者個々の願いに応える支援を行っていく。また、コロナ禍で途絶えていた地域活動を再開し、改めて地域での認識を深めていく。

#### 2 事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生産活動の充実</li> <li>② 利用者増と定着</li> <li>③ 職員の資質向上と支援の充実</li> <li>④ 地域に根差した活動の充実</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 麺の製造販売では、取引先のスーパーマーケットで商品案内を工夫し、ふるさと納税返礼品をはじめとしてネット通販の需要を開拓することにより、小売り用商品の販売数の増加を目指す。また、市役所の食堂で生そば提供が定着したように、施設や食堂への給食用に商談を進める。県外に向けては、長期保存が可能な半生や冷凍で対応して販売先を開拓していく。これらの販売促進により、年間を通して安定した製造量を確保していく。併せて、稼働スケジュールを利用者が活動しやすい時間帯に調整して、製造に関わることが出来る利用者を増やしていく。一方で、既存の商品の見直し（主にパッケージ）と新商品の開発に向けては、地域開発資源センターの事業活用や悠友ハウスの印刷事業と共同して取り組んでいく。また、経年劣化が進んでいる製造機器の修繕とメンテナンスを行い、機械を効率的に活用し生産性の向上を目指す。援農は、利用者の状況と職員負担を考慮しながら、縮小を図っていく。</li> <li>② 麺の製造に付随するシール貼りや箱折りなどの仕事を増やし、利用者が取り組みやすい軽作業を確保することで、利用者増と定着を促進する。また、送迎サービスの周知など関係機関への広報活動を継続し、見学者の増加に努めていく。現在の利用者にも、通所しづらい冬場の送迎対応を行い、通所日数の増加と定着を促進する。</li> <li>③ スタッフ会では、利用者支援の検討と事業運営の検討を行い、それぞれの課題を共有して取り組んでいく。支援については、利用者の情報や日々の支援状況</li> </ul>



	を職員全体で共有する。また、研修会へ積極的に参加し、報告の場を設け、学びを共有することで、職員の資質向上を目指す。 ④ 地域の役員と関わり情報交換しながら、行事等に参加していく。また、店頭販売や試食会等のイベントを開催し、改めて地域に事業所の認識を深めていく。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 作業 そばやうどんの製造と出荷・納品、販売（自主販売・イベント販売）、施設外就労（援農）、軽作業（シール貼り・箱折り・そば茶の袋詰めなど）</li> <li>■ 行事 お花見、暑気払い、新年会、レクリエーション等</li> <li>■ その他 ①メンバー会（月1回） ②避難・防災訓練（年2回） ③研修会参加（随時）</li> </ul>
作業種別	時給 製造 600 円、援農 380 円、軽作業 250 円
目標工賃	平均月額 23,000 円、最高月額 75,000 円

## (2) -1 びーんず

所在地	長野市篠ノ井御幣川 1233-1	TEL/FAX	026-214-5446/026-214-5449
定員	10名	開設時間	月～金（8：45～16：30）

### 1 2023 年度に向けて

2022 年度はコロナの脅威を身近に感じながらも、皆で協力し合い、日々を乗り越えることができた。菓子・軽作業共に安定した作業量を確保でき、事業所全体として前向きに活動ができた。また、一般就労など次のステップに関心が向いてきた利用者が増えてきた。

2023 年度は、利用者の活躍の場づくり、利用者同士の交流の促進、一般就労へ向けた支援の強化などを通して、利用者が生き活きと通所できる事業所を目指したい。職員については、定期的に支援に関するミーティングを行い、テーマを絞って意見交換や学習を行うことで資質の向上を目指す。ポイントを押さえた支援を職員一人一人が日々実践できるようにしていく。

### 2 事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者の活躍の場づくり</li> <li>② 利用者同士の交流の促進</li> <li>③ 工賃アップに向けた取り組み</li> <li>④ 一般就労を希望する利用者への支援体制の強化</li> <li>⑤ 職員の資質向上</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① マニュアルの整備が不十分な部分に関しては、マニュアルの整備を進め、現在使用しているマニュアルについても必要があれば改良していく。特に、菓子の製造場面などは映像資料を活用しながら、利用者のスキルアップを促進する。希望調査を行い、利用者の興味・関心や意欲をくみ取り、前向きな行動を引き出せるよう努める。</li> <li>② メンバー会を定期的で開催しながら、従事している作業の枠を越えた交流を促していく。小規模なレクリエーション等を企画し、作業場面以外での交流を促進していく。</li> <li>③ 菓子は、お中元やお歳暮向けを中心としたギフト商品の開発や週末の販路確保、イベント販売への積極的な参加、季節に応じた商品ラインナップの変更、イン</li> </ul>

	<p>スタグラムを利用した情報発信などに取り組み、工賃アップを目指す。軽作業は、引き続き新規作業を積極的に取り入れ、安定した作業量・収入の確保に努める。</p> <p>④ 悠友ハウス就労移行センターを主とした関係機関と連携を取りながら、一人一人の希望や課題に応じた支援を検討する。びんずの特徴や強み、提供できる支援や経験は何かを整理し、利用者にわかりやすく提示する。それを踏まえて、一般就労までの道のりを利用者と共に描いていく。</p> <p>⑤ 昨年度末に取り組み始めた支援に関するミーティングを引き続き行い、利用者の基本情報の共有やスタッフの学習、日々の支援のふり返りの機会を確保する。支援会議やモニタリングでの経過を共有し、職員間の連携を強化する。各種研修へ積極的に参加する。</p>
活動内容	<p>■ 作業・菓子の製造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売（定期販売やイベント販売への参加）</li> <li>・軽作業（ゼリーの筒詰め、箱折り、果実のネット折り作業等）</li> <li>・自主製品作り（紙袋作り等）</li> </ul> <p>■ その他 ①メンバー会（月1回） ②合唱（月2回）</p> <p>③スポーツ（ソフトバレー）④避難・防災訓練（年2回）</p> <p>⑤研修会等参加（随時）</p>
作業種別 目標工賃	<p>時給 菓子 570 円、軽作業 150 円、販売 300 円</p> <p>平均月額 16,000 円、最高月額 50,000 円</p>

## (2) -2 あんだんて

所在地	長野市篠ノ井布施高田 823	TEL/FAX	026-213-6122
定員	10 名	開設時間	月～金（8：45～16：30）

### 1 2023 年度に向けて

2022 年度も引き続き高校運動部の惣菜製造を受注できたことで安定した作業量・収入が確保できた。一方、新しい利用者増が課題として残った。また、ボランティアさんが厨房作業に加わって下さったことで、外部との繋がりが広がった。

2023 年度は、今後の事業展開の検討を通して「ここで働きたい」と思える魅力ある事業所づくりを進めていく。さらに、経験の浅い方でも働き始めやすいよう、作業内容の整理や見える化等の環境整備を行い、利用者増に繋げたい。また、これまで培ってきた地域との繋がりを大切にしつつ、ボランティアの積極的な受け入れを行い、さらに地域に開かれたお店づくりを進めていく。

### 2 事業計画

重点目標	<p>① 今後の事業展開の検討</p> <p>② 利用者増</p> <p>③ 利用者のスキルアップ機会の充実</p> <p>④ ボランティアとの連携、積極的な受け入れ</p> <p>⑤ 職員間の連携強化</p>
------	---

<p>目標に向けた取り組み</p>	<p>① 引き続き、利用者が力を発揮しやすいか、無理なく継続することができる事業なのか、改築の必要性も含めてスペースを有効利用できるのか、などの視点から、今後の事業展開について検討する。関係者の声を集めながら、現在の利用者はもちろんこれから利用を考える者にとっても魅力ある事業所を目指していく。</p> <p>② 経験の浅い方でも取り組みやすいよう、作業内容の整理や見える化等の環境整備を行う。見学・体験者を積極的に受け入れる。関係機関への情報発信、情報共有を工夫する。</p> <p>③ 作業ごと、マニュアルの作成・改良を進める。接客やレジ打ちの練習会、調理実習など、実践を交えながら楽しくスキルアップできるよう工夫する。また、衛生管理についての勉強会は事業所全体で行い、職員・利用者共に日々の作業に活かせるようにする。施設外作業やワゴンカフェ販売は、事業所でも練習を行い、自信をもって企業や県庁での作業に臨めるようにする。練習会や調理実習、勉強会などを定期的に行い、利用者の力を伸ばす環境づくりを進める。</p> <p>④ ボランティア委員会と連携しながら、情報発信を行う。ボランティア養成講座の体験に限らず、積極的にボランティアの受け入れを行う。</p> <p>⑤ びーんずが行う支援に関するミーティング及びスタッフ会を活用しながら、日々の支援のふり返りや意見交換を継続する。軽食店舗が落ち着いた時間で終礼を行い、日々の情報交換に努める。</p>
<p>活動内容</p>	<p>■ 作業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽食事業及び弁当惣菜製造</li> <li>・販売（定期販売やイベント販売への参加）</li> <li>・施設外就労（大日本法令印刷での封緘・検品作業）</li> <li>・県庁ワゴンカフェ販売</li> </ul> <p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①メンバー会（月1回）</li> <li>②合唱（月2回）</li> <li>③スポーツ（ソフトバレー）</li> <li>④避難・防災訓練（年2回）</li> <li>⑤研修会等参加（随時）</li> </ul>
<p>作業種別 目標工賃</p>	<p>時給      キッチン（調理） 450円、フロア（接客）420円  施設外就労 400円、販売 300円、ワゴンカフェ 500～700円  平均月額 16,000円、最高月額 50,000円</p>

### Ⅲ 2023年度 共同生活援助事業計画（絆の会地域生活センター）

#### 1 2023年度に向けて

2022年度は、グループホームあり方検討会において老朽化し住居には適さなくなったリアン若里に変わるグループホームについて検討を重ね、新たに「リアン松岡」を開設する準備を進めている。また、利用者が安心して生活できる環境を整えるため、グループホーム全体の職員体制の見直しを行った。みらいコーポ稲葉では高齢者に限定せず、障害の特性により居住支援の必要な利用者の受け入れを始めた。

2023年度は、昨年度まで検討してきた職員体制として、地域生活センター全体をみる職員の体制を整え、利用者のニーズを把握し、希望に沿った個別支援計画作成、支援の充実に力を入れる。また、昨年度まで行ってきた職員のスキルアップのための勉強会を継続し、職員の資質向上に努める。各グループホームの高齢利用者はすぐ先の将来について本人、家族、相談支援専門員、介護支援専門員と話し合いを重ね、本人の意向を中心に進めていく。4月1日開設の「リアン松岡」については地域への定着を目指していく。

#### 2 事業計画

重点目標	① 個別支援の充実 ② 職員の資質向上、職員間の連携強化 ③ リアン松岡の新たな地域への定着を図る、新しい入居者との関係づくり
目標に向けた取り組み	① 本人の希望を第一に本人、家族、関係機関と連携し、将来を見据えた支援を行う 定期面談の実施 ② 職員同士のコミュニケーションを深め、話しやすい、相談しやすい環境を作る。 職員勉強会の継続、職員間で支援の振り返りを定期的に行う。 個別支援計画作成のための勉強会などを行う。 ③ 地域の行事へ積極的に参加する。 メンバー会やボランティアを交えたレクリエーションを通して親睦を深める。
活動内容	■ 行事 グループホーム合同行事（誕生日会・季節の行事等） ■ その他 メンバー会（月1回）、地域行事への参加、ひまわりの会（当事者会） ボランティア受け入れ、避難・防災訓練（年2回）
グループホーム基本情報	絆の会地域生活センター（4カ所、定員22名） セルフィー平林（定員5名） 長野市平林1丁目 リアン松岡（定員5名） 長野市松岡1丁目 クレール篠ノ井（定員5名） 長野市篠ノ井布施高田 みらいコーポ稲葉（定員7名） 長野市稲葉

## IV 2023年度 短期入所事業計画

みらいコーポ稲葉 (1床) 長野市稲葉

### 1 2023年度に向けて

2022年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、利用者が安心して過ごせるよう受け入れを行った。上半期は利用者が少なかったため、ホームページ等を活用し広報活動に力を入れ、登録のある利用者には積極的に声かけを行った。その結果利用増につながった。

2023年度は、引き続き感染予防対策を徹底し、受け入れを行っていく。自立に向け、親と離れての生活の体験など利用者のニーズに沿った受け入れを積極的に行う。今後の方向性を考えながら、安心して利用できることを第一に、入居者やボランティアとの交流を図る。職員間で情報を共有し、一人一人のニーズに沿った支援のため、個別面談や、家族との調整を行っていく。

### 2 事業計画

重点目標	① 利用者の基本情報・利用目的を職員間で共有し、一人ひとりのニーズに沿った支援を心がける ② 広報活動、PR活動の継続
目標に向けた取り組み	① 利用開始時に目標・計画の確認、利用時には振り返りを行う。 環境整備を行い、安心して過ごせるよう配慮する。 職員間の申し送り事項の徹底。 家族との連絡調整、相談支援専門員との情報共有。 ② 法人内外に積極的に情報発信を行っていく。 相談支援専門員との連携、機関紙、ホームページなどを活用し情報発信を積極的に行う。

## V 2023 年度 地域活動支援センター事業計画

### 皆神ハウス

所在地	長野市皆神台 157	TEL/FAX	026-278-7466/026-285-0579
定員	20 名	開設時間	月～金(9:30～17:00)

#### 1 2023 年度に向けて

2022 年度は、利用者の意見を多く取り入れ、プログラムを増やして事業を行った。手仕事や食事のプログラム、みなかみカフェ等にボランティアの協力をいただきながら実施できた。皆神台区との共催事業として、防災講座を地区との協力を得て実施した。毎月行っている家族茶話会は新しい家族がまたさらに家族を誘い、学習会を始めるなど活発になっている。つむぎの家の閉館により新規利用登録者も多かったが、開館曜日を変更したことにより、水曜日・土曜日の開館がわかりにくく、利用しにくい面があった。

2023 年度は、「リアン若里」が移転するため後利用として利便性の良い若里地区への移転を行う。開館曜日については、就労事業所やグループホームの利用者、一般就労している利用者も通所しやすい月～金曜日を開館する。プログラムは、利用者の意見を聞きながら魅力ある内容をボランティアの協力を得ながら実施する。家族会は定例の茶話会を開催する他、若い世代の家族等が気軽に集える場をつくる。

新たな若里地区で、地域との関係づくりを行い、障害理解の啓発活動や交流事業を実施する。皆神ハウス事業展開検討会を開催し、近くなった就労系事業所やグループホームの利用者の状況を見ながら、新たな事業についても検討していく。

#### 2 事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人ひとりの目的に沿った支援を行うため、相談支援の充実を図る</li> <li>② メンバー会が自主的に活動できるように支援する</li> <li>③ プログラムの充実</li> <li>④ 地域との関係づくり</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者の支援は、本人の希望に沿った支援を行うため、就労支援事業所や相談支援事業所と連携して行う。移転に伴う環境の変化により影響を受ける利用者に対して、個々に利用目的を明確にして丁寧な支援を行う。</li> <li>② メンバー会を月 1 回実施し、利用者相互の意見交換の場、行事等の計画づくりと実行までのプロセスの支援を行う。</li> <li>③ プログラムの充実を図るため、ボランティアや地域の方の協力を得て、利用者にとって魅力ある活動を実施する。若里地区の社会資源を活用して社会活動の場を広げる。</li> <li>④ 松代町皆神台区のみなさんに感謝を表す会の開催。 若里地域への移転後は、地域との関わりのもてるように地域・関係機関への広報活動、地域の方が参加できる行事を実施する。</li> </ul>
会議等	長野市障害ふくしネット(かつどう部会)への参加

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 創作的活動・プログラムを含む（手しごとカフェ・コラージュ・昼食作り・手芸・女子会等）</li> <li>■ 生産活動（喫茶コーナーに代わる事業の創設）</li> <li>■ 当事者育成（ピアカウンセリング・メンバー会支援・体験発表等）</li> <li>■ 広報活動（リーフ通信等）</li> <li>■ 地域交流行事（ミニコンサート・作品展示・ギャラリートーク）</li> <li>■ 生活支援講座（市等の出前講座等を活用しシリーズ化）</li> <li>■ 避難・防災訓練（年2回）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 行事 お花見 デイキャンプ ハイキング</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ その他 ①当事者会（ひまわりの会）参加 ②合唱参加（月2回） ③スポーツ参加（ソフトバレー） ④家族定例会、家族向け学習会（年1回）、家族茶話会（月1回） ⑤研修会等参加（随時）⑥実習生受け入れ ⑦若里地区保健福祉関係者との連携を図る</li> <li>■ メンバー会主催 ①メンバー会（月1回）②暑気払い・忘新年会 ③カラオケ</li> </ul>

## VI 2023年度 相談支援事業計画

### 絆の会相談室

所在地	長野市大字稲葉 15-7
TEL/FAX	026-217-6637 / 026-213-6444
開設時間	月～金（8：45～17：30）

#### 1 2023年度に向けて

2022年度は、中期事業計画を踏まえ相談室を長野市中心部に移転したことで利便性が向上し移動時間の短縮にもつながった。また、主任相談支援専門員を配置し事業所内の事例検討等においてスーパーバイズを行い人材の育成を行なった。担当している利用者の中には、高齢化に伴い介護保険事業所への移行や成年後見支援センターへの相談が必要となるなど、相談支援専門員の支援も多岐にわたってきている。

2023年度は、引き続き主任相談支援専門員による相談支援専門員へのスーパーバイズを行い、計画相談の質の向上を図る。委託相談支援事業としては、長野市障害者地域移行支援コーディネートセンターに引き続き職員を配置し、地域移行支援に関する体制整備と指定一般相談支援事業所への支援を図っていく。自立生活援助事業については、体制を充実させ利用者の幅広いニーズに応えていく。

#### 2 事業計画

##### 【計画相談支援・地域相談支援事業】

2022年度、計画相談支援は職員体制の変更などもあり担当件数の調整が必要となったが、一人ひとりの利用者への丁寧な支援を心がけた。

地域移行支援は、新型コロナウイルスの影響により中断することも続いたが、月平均2～3人の支援を行った。地域定着支援は実人数5名の支援を行った。

2023年度、計画相談支援は、利用者の希望に沿った支援を行うためモニタリングの頻度を上げ、各事業所とより連絡を取り合う機会を増やしていく。地域移行支援は、引き続き地域移行コーディネートセンターや精神科病院と連携して丁寧な支援を進めていく。地域定着支援は、退院した方や一人暮らしの人が安定した地域生活を継続していくことができるよう支援していく。

- ① 障害当事者及び家族、関係者等からの相談(電話・来所)・訪問・同行等の支援及び情報提供
- ② 計画相談支援、地域移行支援計画、地域定着支援台帳の作成
- ③ 長野市障害ふくしネット、指定相談支援事業所連絡会、各種研修に参加する

##### 【長野市地域移行支援コーディネートセンター】

2022年度は、精神科病院や更生保護施設、他地域も含めた障害者相談支援センターの地域移行に関する相談を受け、一般相談支援事業所とも連携を図り、地域移行支援の推進を図った。新型コロナウイルスの影響により中断するケースもあったが、他法人の一般相談支援事業所と情報の共有に努めたことで地域の体制の強化につながった。

2023年度は、引き続き病院等の巡回訪問を行うとともに、長野市自立支援協議会(長野市障害ふくしネット)や他地域(須高地域・北部地域)の自立支援協議会にも積極的に働きかけ、指定一般相談支援事



業所を増やす取組や障害のある人の生活に関わる関係機関等と連携をすることで、地域の支援の底上げを図る。特に、長野市障害ふくしネット地域でいこう委員会では、指定一般相談支援事業所連絡会を今年度も開催していく。

- ① 精神科病院を訪問し事業への理解を得ていくとともに、地域の社会資源等の情報提供を行う
- ② 地域移行、地域定着を推進するための普及啓発活動を行う
- ③ 会議等への参加  
ケアマネ連絡会  
地域でいこう委員会（長野市障害ふくしネット）  
須高地域・北部地域自立支援協議会  
長野県精神障がい者地域生活支援コーディネーター等連絡会

#### 【自立生活援助事業】

2022年度は、生活に必要な備品の購入や様々な手続きへの同行支援を必要とする人が多く、相談支援専門員と連携して行うことができた。

2023年度は、相談支援専門員との緊密な連携を行い、日々の生活不安解消や問題解決に向け支援するだけでなく、利用者の幅広いニーズに対応していく。

- ① 利用者への定期訪問により、安定した地域生活を送れるよう支援していく
- ② 相談支援専門員との連携を密にし、支援の方向性を共有し自立生活支援計画を作成する
- ③ ケア会議への出席等

以上の3事業の他、障害支援区分認定調査を引き続き実施していく。